

◎日 時	平成25年9月3日（火）午後3時00分～午後3時45分
◎場 所	北見市役所 北2条仮庁舎 3F 庁議室
◎出席者	会議委員：塚本会長、高橋副会長、山村委員、佐藤（忠）委員、平子委員、 佐藤（浩）委員、広川委員、山内委員、多田委員、戸田委員、元嶋委員、 鈴木委員、遠藤委員、西田委員、香川委員、小原委員、阿部委員、 皆川委員、志賀委員 北海道開発技術センター：原理事、芝崎氏 事務局：浅野目企画財政部次長、橋本地域振興課長、奥原地域交通担当係長

## 開 会

浅野目次長： 皆さんこんにちは。今日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、平成25年度第3回北見市地域公共交通会議を開催させていただきます。開催にあたりまして、塚本会長からご挨拶をいただきたいと思います。

塚本会長： 皆さんご苦労様でございます。9月に入りまして、暖かさも一段落というところですが、テレビ報道を見ますと、本州等では非常に混乱した気象状況となっています。昨日も竜巻が発生して、60名以上の方が怪我をし、広範囲にわたって住宅や建物が被害を受けた、とのことでした。また、北海道のほうでも、長雨により農産物等に影響がでているところですし、道南地方では本当にひどい、バケツをひっくり返したような雨が降っている、という状況です。これらは、簡単に温暖化のせいと言って良い状況かどうかはわかりませんが、いずれにしても、私たちが経験したことの無いような地球環境になっているようです。そうした中で、全国の交通機関においてもいろいろな事故等が起きていることから、公共交通機関についてもきっちりとした対応をしていかななくてはならない、と感じる今日この頃でございます。

今日は第3回北見市地域公共交通会議でございます。レジューメにもございますように、皆様方のご協力をいただきまして、川東・若松地域コミュニティバスがいよいよ10月から本格運行に移行していく、という時期になりました。そういう意味では、一つの路線を地域の住民の皆様とともに作りあげてきた、ということで、われわれとしても成果が出てきて非常に嬉しく思いますし、これからも地域の住民の足を確保する、という観点から、新たな路線についてひとつひとつ検討していかななくてはなりません。特に、これから高齢化社会が進行していくわけですから、公共交通機関はますます重要になってくると思います。皆様のご支援をいただきながら、北見市に素晴らしい交通体系を作りあげていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

浅野目次長： それではこれからは塚本会長に進行をお願いいたします。

塚本会長： まず、会議成立宣言について、事務局から報告をお願いします。

橋本課長： 皆様ご苦労様です。本日の出席委員数は、21名中、19名であります。北見市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。なお、端野まちづくり協議会の日置委員、

常呂まちづくり協議会の江田委員については、欠席する旨の連絡を受けておりますことをご報告申し上げます。

#### 報告事項（１）川東・若松地域コミュニティバスについて

塚本会長： それでは、議題のほうに入っていきたいと思います。まず、（１）川東・若松地域コミュニティバスについて事務局から説明をお願いします。

奥原係長： それでは、説明をさせていただきます。事前に送付させていただきました資料１のチラシにつきましては、作成途中のものを送付させていただいております。誠に申し訳ございませんが、本日、お手元に配布させていただきました資料に差し替えいただきますようお願いいたします。

川東・若松地域のコミュニティバスにつきましては、１０月１日からの本格運行計画（案）として、前回、６月１７日開催の第２回交通会議におきましてご説明し、ご承認いただいたところではありますが、交通会議開催の後、７月１０日から１１日にかけて、川東・若松地域で説明会を開催させていただきました。最終の運行計画としてまとめさせていただきましたところでございます。

説明会では、何便のバスの出発時間を早くしてほしい、また、この便についてはもう少し遅くしてほしいなどの要望をいただいたところですが、アンケートの結果や地域検討会での結果を受けて作成した内容であり、個々の意見を全て反映することは難しい状況で、出発時間については、今後も地域の意向を調査しながら変更等をさせていただくということでご理解をいただいたところでございます。

なお、説明会の中で、バスの愛称についてご提案をさせていただきましたところ、市の方にお任せするというところだったので、北海道北見バス株式会社さんにご相談をさせていただきました。地域の皆様に親しまれるコミュニティバスとなることを目指し、地域内の唯一の小学校であります若松小学校の児童の皆さんにご協力をいただくこととし、７月１８日から３１日までの期間で愛称を募集させていただきましたところでございます。

応募の結果、１８名の児童から、３４点の応募をいただき市職員５名、北海道北見バス株式会社さんから５名、選考審査員ということで、審査に携わっていただきまして、こちらのチラシにもありますように「わかバス」ということで選考させていただきましたところでございます。

応募者につきましては、北見市立若松小学校４年生の富永咲楽さんで、若松の「わ」、川東の「か」、みんなが輪っかになって楽しく乗って仲良くなれるように「っ」を入れて「わか」にしたということでございます。応募者の思いが届くように、多くの市民の皆様に利用いただき、友達の輪が広がればと考えているところです。

また、愛称にちなんだキャラクターとロゴということで、社団法人北海道開発技術センターさんに考案いただきまして、こちらにつきましても北海道北見バス株式会社さんと相談させていただきました。チラシにございますとおり、ロゴについては、緑の字で表記しておりますわかバス、キャラクターについては、右側にありますバスの屋根の部分にわかがついているものを選考させていただきましたところでございます。こちらの愛称とキャラクターにつきましては、広報及び市のホームページなどで発表するほか、コミュニティバス車体に掲

出する予定でございます。

なお、チラシに掲載しております利用方法、運賃、バスの運行時間など内容につきましては、本格運行計画の内容と変更になる部分はありませんので、説明については、省略をさせていただきますが、チラシの裏面には、これまで多くの方から質問をいただきました項目について、Q&Aということでまとめさせていただいたところがございます。本日の交通会議終了後に、10月1日からの本格運行に向けて、明日9月4日には川東地域、また、9月11日には若松地域で最後の説明会を開催させていただく予定でございます。以上でございます。

塚本会長 : ありがとうございます。今、事務局のほうから川東・若松地域のコミュニティバスについてのこれまでの経緯と、名称がわかバスに決まったということの報告がありました。ロゴマークを本格運行するバス車体に付ける、ということも含めてご提案がありました。これについてご意見、ご質問があれば承りたいと思います。こういうことで決まったということによろしいですか。(はい) ありがとうございます。

これはアイデアが採用された若松小学校の富永咲楽さんに、出発式のときに表彰式などを実施したりするのですか。

橋本課長 : まだ出発式などの予定はありませんでしたし、表彰については、若松小学校の校長先生にいろいろお話をさせていただき、こちらのほうから図書カードをお渡ししておりますので、それで終了させていただいたところです。

塚本会長 : 皆さん、よろしいでしょうか。提案いただいたお子様に対しては図書カードをお渡しして労をねぎらっている、とのこと。いずれにいたしましても、わかバスで10月1日から運行開始となる、とのことですが、よろしいですか。(はい) ありがとうございます。

#### 協議事項(1) 新しい交通システムについて

塚本会長 : 続きまして、5の協議事項に入らせていただきます。新しい交通システムについて、ということで、事務局から説明をお願いします。

奥原係長 : 資料2についてご説明させていただきます。1ページ、路線の変更・新設、新たな交通システムの導入フローについてであります。市では、平成23年度に地域公共交通計画を策定し、個別のアクションプランとして、路線の変更・新設、新たな交通システムの導入を掲げているところです。取組みを進めるにあたりましては、まず、4自治区には、それぞれの地域課題などがあり、それらを把握・整理した中で進める必要があることから、毎年、担当者会議を開催し、検討地域を想定しているところです。地域の想定が終了しましたら、事前準備として、地域の実態把握、自治会長等を通して、地域意向を把握し、最終的に対象地域の選定を行い、地域との協議、アンケート調査、バスが走っている場合は交通事業者などとの協議が必要となりますので、協議を経て、運行計画を作成します。その後、運行計画に基づき、実証運行を行い、分析、評価を行い、運行継続の判断、元々路線バスが走っている場合は、元のバス路線に戻すのか、また、新しい交通システムに移行したほうが良いのかを判断するという流れで進めているところでございます。

次に2ページ目をご覧ください。路線の変更・新設、新たな交通システムの導入を行う際には、利用者目線での経路・便数などの変更を行うほか、平均乗車密度の低い路線の乗車密度

の向上、交通空白地の解消という視点から地域を選定しているところでございます。下段の表は市の単独補助路線の状況でございますが、右から2列目に平均乗車密度が記載されており、1.0未満の路線が大正線、北陽線、若松線、瑞穂線、厚和線の5路線となっておりますが、若松線につきましては、新たな交通システムということで実証運行等を経まして10月1日より本格運行に移行することが決まっております。なお、この5路線の他の路線についても、平均乗車密度については、低い状況にあります。

次に交通空白地の状況についてであります。決まった定義はないということですが、一般的にバス利用圏の半径300mを採用されていることが多いということで、北見市におけるそれぞれの自治区ごとの図面にバス利用圏半径300mを落とした資料を3ページから6ページに添付してございます。それぞれ図面を見ていただくとおわかりになるかと思いますが、主要幹線道路や市街地から離れるほど交通空白地が存在している状況となっております。

このような状況を鑑みながら、現在、次年度以降の路線の変更・新設、新たな交通システム導入予定地域について検討を進めているところでございます。以上でございます。

塚本会長 : ただ今、新しい交通システムの選定について事務局のほうで、1ページにありますように、手順にもとづきながら、今後新しい路線を選択していく、という報告がございました。委員の皆様から何かご意見等ございますか。

ここに市単独路線、とありますが、平均乗車密度が1.0以下の路線にする、という考え方でよろしいですか。

橋本課長 : 1.0未満が一番の対象路線かと思いますが、それ以外にも北光線や光西町線も、乗車密度が1.6や2.1となっており、これも含めて検討させていただきたいと思います。

塚本会長 : いかがでしょうか、まだこの中で、ということで決定したわけではなく、手順に基づいて次の交通システムを導入する路線を選択していきます。どれになる、ということではなくて、今後こういう考え方で次を選択していく、という事務局からの提案です。私はここが良い、などのご意見があればお知らせしていただきたいのですが。皆さん、よろしいですか。この後、幹事会等で詳細にどの路線で進めていくかを検討していきますが、いずれにしても、このようなやり方で進めていきます。よろしいですか。(はい) また、何かございましたら、皆様からお示しいただきたいと思います。では、そのように進めていくことをご了承いただきたいと思います。

#### 協議事項(2) 公共交通利用促進について

塚本会長 : 続きまして、公共交通利用促進について、ということで、事務局から説明いただけますか。

芝崎氏 : 北海道開発技術センターの芝崎と申します。私のほうから、北見市における特定路線利用促進策についてご説明させていただきます。事前にお送りさせていただいた資料は幹事会に諮る前の資料でして、本日お手元にお配りさせていただいている資料でご説明させていただきます。

まず、2ページ目の、利用促進策を図る特定路線でございます。前回の地域公共交通会議でもご意見が出ておりましたが、その後、幹事会で、夕陽ヶ丘線で利用促進策を図る、ということになりました。夕陽ヶ丘線の簡単な概要を説明いたしますと、運行キロが21.4K

m、便数が13.9便、始発が7:00、終発が18:20となっています。平均乗車密度が現在6.6となっていますので、先ほどの新しい交通システムの対象として挙げられた路線よりは密度が高いですが、より利用していただくために、利用促進を図っていきたいと考えているところです。

3ページ目ですが、今回実施する利用促進策は概ね2種類必要でございます。1つが居住世帯を対象とした利用促進策、ということで、夕陽ヶ丘線沿線の居住者の方にコミュニケーションアンケートを配布いたしまして、利用促進を図りたいと考えております。概ね1,200世帯を予定しております、配布物はコミュニケーションアンケート、動機付け冊子、夕陽ヶ丘線目的別時刻表、北見市全体の交通マップ等を予定しております。

もう1種類の利用促進策でございますが、施設利用者を対象とした利用促進策です。基本的には、夕陽ヶ丘線沿線の施設利用者に対面式でコミュニケーションアンケートを配布する、というものです。さまざまな利用者が施設に訪れますので、行動変容の可能性の高い、夕陽ヶ丘線沿線に住まわれているような方を対象に、簡単な聞き取り調査を行ったうえで、コミュニケーションアンケートを配布する予定でございます。数量は概ね300票を予定しておりますが、回収も300票に近くなるように配布を行っていきたいと思います。配布物は先程と同様です。

4ページ目でございます。活用するコミュニケーションツール、ということで、より公共交通を利用していただくために、さまざまな情報提供を行う一つの手段です。一つは動機付け冊子というものでして、皆様のお手元にもお配りさせていただいております。こちらはA5の物でして、ずっとバスを利用し続けるとどうなるか、ということについての情報を提供させていただいております。こちらはバス利用の動機付けを図るための冊子ということで、情報をできるだけ減らして伝わりやすい情報を掲載しています。こちらは先ほどの幹事会で文言の修正がございましたので、こちらは期日までに修正して配布したいと考えております。

5ページの、作成するコミュニケーションツールというところですが、先程の幹事会で、ここに記載されている内容に若干変更がございましたので、あわせて説明をさせていただきます。6ページ目で、目的地別の時刻表と作成しておりますが、こちらはA3で作らせていただきまして、時刻表、施設の詳細な情報を掲載いたしまして、利用目的に合ったマップを作成させていただきます。こちらの案としては、買物ということに情報を絞って掲載させていただきました。必要な詳細情報を地図に掲載するかどうかは、幹事会のほうでも議論がございましたので、修正させていただきます、目的地をわかりやすく表示しながら利用促進を図る、というものをA3で作る、という予定です。

7ページ目です。こちらはコミュニケーションアンケートの設問内容です。具体的にアンケートを行いながら、心理的な尺度、指標、具体的な利用方法などを調査します。設問内容といたしましては、個人属性で、性別、年齢、職業、居住地などをお聞きします。行動尺度として、過去2週間の自動車利用頻度や、バスの利用頻度、夕陽ヶ丘線の利用頻度というものをお答えいただきます。心理的な尺度ということで、5段階で尺度を計測しますが、自動車利用の抑制ということで、クルマにあまり頼らないライフスタイルを目指そうと思いませんか、という設問、クルマを控えることは難しいと思いませんか、という設問などで、自動車利用の抑制という状況を促すために、5段階の心理的な尺度で計測いたします。環境に優しい

移動を心がけようと思いますか、お金のかからない移動を心がけようと思いますか、健康に良い移動を心がけようと思いますか、など、移動自体の意識について5段階の尺度で計測いたします。また、行動意図ということで、できるだけバスを利用しようと思いますか、ということも心理的な尺度として測ります。最後に、できるだけ自転車や歩行による移動をしようと思いますか、という、バス以外の行動について測ります。

このアンケートを実施したうえで、コミュニケーション設問、ということで、具体的に自分がバスを利用する際の具体的なプランというものをご検討いただきまして、行動に移していただきます。夕陽ヶ丘線の最寄のバス停留所について教えてもらい、施設に行く際に利用する可能性のあるバス停留所を聞きます。また、夕陽ヶ丘線での移動方法検討してもらい、それらがいつぐらいにできそうですかと聞いて、できるだけ行動に移してもらいます。

最後に、夕陽ヶ丘線をより利用しやすいものにする、ということで、改善ニーズについてお聞きします。こちらは、利用しやすくするための改善点について、どこが改善されると良いと思いますか、ということで、バス停留所の位置や、時刻表、他路線への接続などの改善点をお調べします。このように、コミュニケーションツール、またはコミュニケーションアンケートというものが、一式で、ポスティングという形で、ご自宅にお届けする、または施設の中でお渡しする、ということで実施をいたします。

8ページ目からは、どちらでこの調査を実施するか、ということを検討します。平成23年度6月から、平成24年度7月までの、夕陽ヶ丘線の乗降データをバス停ごとに整理しまして、1日の平均乗車・降車人数を算出したものです。青いグラフの部分が乗車人数、赤い部分が降車人数となっております。イオン北見店というところがかなり多くなっております。こちらをもとに、9ページ目で、どこのエリアで世帯を対象とした調査をするか、ということを検討しています。一つが、利用者の平均利用人数が10人以下のバス停、利用が少ないバス停を、コミュニティケーションアンケートをお配りするエリアということで説明させていただきました。一方で、イオン北見店に多くの乗降者がいるので、そこまでの徒歩圏内に関して、コミュニケーションを図ってもバス利用が伸びない、ということもございますので、イオン北見店から3つの停留所は外させていただきます、それ以外の停留所を、今回の利用促進策を図るエリアとさせていただきます。少しデータに誤りがございまして、下の赤い枠で囲ってあるところが、基本的に利用促進策を図るバス停留所です。10人以下のところ、中央小学校、日赤病院、学園通りなどは、対象となっているのですが、赤い枠で囲まれておりませんので、訂正していただければと思います。訂正いただきたいのが、中央小学校、日赤病院、学園通、夕陽ヶ丘6号線、この4つがコミュニケーションツールを配布するバス停留所ということで決定しております。全部で20のバス停留所を対象に利用促進策を図りたいと思います。バス停留所から概ね300mの範囲の世帯にポスティング調査ということでポストにコミュニケーションツール、アンケートをお配りし、郵送によりアンケートを回収する方法を予定しています。

次のページで、施設に訪れた方への利用促進策ということをご説明いたします。大型集客施設ということで、イオン北見店での実施を予定しております。こちらのデータは少し古いのですが、平成17年度の実効性確保診断事業というものでポスフルの調査を実施した経緯がございますので、参考程度に掲載しております。これを見ますと、北見市内の多くの方

がイオン北見店にご来場されている状況ですので、その方を対象に、行動変容がありそうな、夕陽ヶ丘線沿線に住んでいそうな方にコミュニケーションツールというものをお配りして、利用促進策を図っていきたいと考えています。

11ページですが、効果検証方法ということで、ICバスカードによる乗車、降車データを、過年度と比較して、利用促進の効果を測りたいと考えています。夕陽ヶ丘線は若葉線と一部路線が重複しているということですので、若葉線の利用が増える、ということも考えられます。効果検証においては、夕陽ヶ丘線と若葉線両方とも効果の分析を行いたいと考えています。これは前回の幹事会での意見でした。

最後のページですが、今回の調査は、バス路線については利用者が落ちる夏季の時期でございまして、この時期の取組が必要であるとの意見が前回の幹事会で出まして、少し時期を早めて、雪が降る前に今回の利用促進の取組を実施したいと考えています。時期としては、平成25年10月から11月ごろを予定しておりまして、幹事会で細かなご議論をいただきましたので、こちらのほうの資料の修正をさせていただきながら、具体的な計画、資料の作成を行い、調査に進んでいきたいと思っております。

最後に、本日13:30から北見市地域公共交通会議幹事会を開催させていただきまして、その幹事会の結果について、座長の高橋先生からお話いただければと思います。

高橋副会長： この会議の前に幹事会を開催させていただきました。その議論の中で、夕陽ヶ丘線の利用促進策ということで、これから実施することについてご議論させていただきました。

簡単に言うと、ある程度利用者のターゲットを絞って、さらにエリアターゲットも絞って、自動車から公共交通に振り替えてもらうための、意識の変革をしてもらうためのアンケート調査をする、ということです。ここにコミュニケーションツールがありますが、私が思っているのは、誰かとコミュニケーションするのではなく、今まで自分たちが車を使っていた、という、内なる自分とコミュニケーションを交わしながら、もう1度今までの行動について見直していただく、ということが一番大きなポイントだと思います。その中から、もう少しバスを使えるのではないか、ということに気持ちが移っていくためのいろいろな方策を、手を変え品を変えしていく、ということが重要であると思っております。最後のページにあるように、この取組は、来年の春、雪が融けてから結果が出てくる話ですので、そこまでいろいろなことをやっていかなければならないのですが、なかなかドラスティックな声が出てくるとは、私は考えていません。少しずつ、確実に、連続的に取り組むことが必要であると思っております。その一つのスタートが、この秋にやる、コミュニケーションツールを使ったアンケートだと思います。先ほどの新しい交通システム、という考え方もありますが、北見市でも、全てオーダーメイドでやらなければならないりません。例えば若松線のやり方が成功したから、他の路線もそれと同じやり方で良いかという、そうではありません。更に、夕陽ヶ丘線に関しては、今まで乗っているの、これをそのまま続けていけば増えていく、というものでもありません。路線の特徴をきっちり見ながら、次はどういうことを新たに挑戦していくのか、ということ常に行い続けていくことが、公共交通でこれから利用者を増やしていく、唯一の手段だと思っております。これからいろいろな形で公共交通会議などでご協力していただく場面があるかと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。以上です。

塚本会長： この会議の前に行われました幹事会において、いろいろご意見が出されまして、今高橋先

生のほうからご報告をいただきました。いずれにしましても、新しい利用促進策についてこういう形で進めていきます、ということでご説明がありましたが、これについてご意見等あれば承ります。よろしいですか。(はい)

では、私から山村委員に質問させてください。平均乗車密度が6.6になっているのですが、これは利用状況としてはどうなんでしょうか。

山村委員 : 当社の路線はたくさんありますが、この平均乗車密度6.6というのは、その中でもかなり高い路線です。

塚本会長 : そのほか、何かございますか。よろしいですか。いずれにいたしましても、高橋副会長がおっしゃったように、一つの路線を作ったからそれで良い、ということではなく、常にフォローアップをしながらその路線を高めていくことが必要だ、というお話がございました。そのためにも、こういう調査事業をやっていかななくてはならない、ということですが、よろしいですか。(はい) では、夕陽ヶ丘線について、今後こういうアンケート調査をしながら、さらに利用していただけるように、そして、車から公共交通機関へ、という流れを作っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### その他

塚本会長 : 次に、次回の開催日程について事務局よりご連絡をお願いいたします。

鈴木委員 : すいません、少し配布させていただきたい物がございまして、それについて説明をさせていただきます。

公共交通会議で、バスなどを取り上げており、また、タクシー事業などもかなり大変なんです。JRについても、JR発足時に比べて乗降人数が半減している、ということもありまして、私ども運輸局では、こういった鉄道の関係も活性化していかなければならない、ということで、「鉄道の日」実行委員会というものを立ち上げました。10月14日が鉄道の日なんです。その週の10月12日に小学生のお子さんとペアで募集をかけまして、特別列車の焼肉列車という、ホットプレートが付いている列車なんです。そちらで昼食をとっていただいて、丸瀬布のいこいの森で蒸気機関車に乗ったり、昆虫博物館などを無料で利用していただくツアーを企画しましたので、まことに申し訳ございませんが、皆様会社などにお戻りになられたり、あるいは親戚等に小学生のお子さんが居る家がございましたら、宣伝していただきたいと思います。お時間いただきましてありがとうございます。

塚本会長 : 委員の皆様、そういう状況でございますので、ぜひPRのほうをよろしく願いいたします。募集はこれからですか。

鈴木委員 : 既に宣伝等はしているのですが、今日の段階で3~4枚ハガキが来ておりまして、9月17日が最終の締めとなっております。ハガキでの応募をよろしく願いいたします。

塚本会長 : では、事務局よりお願いいたします。

橋本課長 : すべての協議事項に対しましてご承認いただきましてありがとうございます。わかバスが10月1日より本格運行となりますので、委員の皆様、傍聴されている皆様もぜひ一度ご乗車いただければと思います。次回、第4回目の交通会議であります。11月中の開催を予定しております。案件につきましては、コミュニティバスの4月から9月までの運行結果等について予定しております。ご案内につきましては、改めて送付させていただきますので



よろしくお願いいたします。以上でございます。

塚本会長 : 皆様から何かございましたら承りたいと思いますが、よろしいですか。

山内委員 : この動機付け冊子は、当面利用促進の部分で活用していくというようなご説明がございました。以前研修会を行ったときに、住民の意識を車から他の交通手段に変えていかなければならない、ということがありまして、私も感銘を受けました。せっかくこういうものを作るのであれば、これからどのように活用をしていこうとしているのかを聞かせていただきたいのですが。

芝崎氏 : 今回については、先程の夕陽ヶ丘線の利用促進を図るために活用させていただこうと思いますが、その他必要があれば、順次配布などを検討していく予定です。今回だけは夕陽ヶ丘線利用促進のツールとして使っていきます。

塚本会長 : 部数はどのくらい作りますか。

芝崎氏 : 今回夕陽ヶ丘線の利用促進策では2, 000部をお配りさせていただきます。他に配布するような箇所があればとは思いますが、そこは検討が必要となります。

橋本課長 : それに加えて、今、市で出前講座を教育委員会で行っておりますが、それに北見市の地域交通について、ということで登録をさせていただいております。ですから、そこで、例えば学校の授業ですとか、町内会の会合ですとか、そういったところに出向いて、このツールを使って地域公共交通について皆様に知っていただく、ということを考えておりますので、よろしくお願いいたします。

塚本会長 : 山内委員が言われたように、公共交通をこれから守り育てていくためには、われわれも声を出していかなければなりませんし、市民の皆様にもこういうものが昔からあるものが素晴らしいものである、ということ再認識していただく場面を作っていかなければなりません。われわれも年を重ねていくにしたがい、車の運転が難しくなってきますので、そうなったときには公共交通機関というのは非常に自分の足として使えるようになります。そういう時代がまもなくやってきますので、もう一度市民に具体的に知っていただければと思います。この冊子が必要であれば、また作っていろいろなところに配布する、ということを考えていきたいと思えます。

そのほか、何かございますか。無ければ第3回目の北見市地域公共交通会議を終了させていただきたいと思えます。いよいよ、川東・若松地域のコミュニティバスが10月1日よりわかバスとして本格運行となり、また、フィーダー系統の夕陽ヶ丘線をもう一度見直して更に乗車密度を増やし、その結果、この地域公共交通のあり方がますます深まっていくと思えますので、委員の皆様にも一つ一ついろいろな部分でご意見等賜ればと思います。今日は第3回北見市地域公共交通会議を有意義なうちに終了することができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(15:45)